

教科名 工業数学

	前期	後期
コマ数	1	0

総時数	36
-----	----

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員 横田 勉

目的	建築分野の科目を学ぶ上で必要となる数学の基礎知識を、問題演習を通して身につける。とくに、構造力学、環境工学、建築法規等の数学を必須とする科目の理解に結び付ける。さらに、設計デザインのセンスを養う内容(数学的思考の訓練)も含むものとする。
----	--

授業概要	前期	後期	
	①	工業数学の概要…授業の目的、進め方、学習方法、定期試験について	①
	②	スケール感(1)…身の回りの単位、尺貫法、SI単位	②
	③	スケール感(2)…組立単位、大きさを表す単位、割合を示す記号	③
	④	スケール感(3)…さまざまな単位(長さ、面積、体積、重さ等)	④
	⑤	さまざまな事象について計算する(1)…基本的な四則計算	⑤
	⑥	さまざまな事象について計算する(2)…分数を含んだ計算、比の計算	⑥
	⑦	さまざまな事象について計算する(3)…公式の活用、比例・反比例	⑦
	⑧	建築設計と図形…図形と幾何学、直線と角度、形状の美しさ	⑧
	⑨	1D(線)を扱う建築事象…長さの測定、三角比の利用、測量への応用	⑨
	⑩	2D(多角形)を扱う建築事象…図形の面積、建ぺい率と容積率	⑩
	⑪	3D(立体)を扱う建築事象…立体の体積、質量と力	⑪
	⑫	1D(線)、2D(多角形)、3D(立体)の問題演習	⑫
	⑬	全体のまとめ	⑬
	⑭		⑭
⑮		⑮	

評価方法	中間試験・期末試験(計2回)による100点満点の平均点数。他に、小テスト、出席率、授業態度等を加味する。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	超入門・建築数理 (市ヶ谷出版社)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 就職研修(硬質書写)

	前期	後期
コマ数		0.5

総時数
19

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 下道 智恵子

目的	就職活動における履歴書の見やすい書き方やそれに伴う添え状の書き方、面接後の御礼状の書き方や封筒の宛名の書き方など就職内定に向けて能力の向上を図る。
----	---

授業概要	前期	後期
		① 履歴書の下書き
		② 履歴書仕上げ
		③ 履歴書添え状の書き方
		④ 面接後のお礼状の書き方
		⑤ 内定のお礼状の書き方
		⑥ 角2封筒の書き方

評価方法	提出課題をもとに100点満点で採点する。
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	
	プリントを使用する	適宜手作り教材のプリントを使用	

その他	
-----	--

syllabus

教科名 就職研修(表計算・ワード)

	前期	後期
コマ数		0.5

総時数
19

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 武川 真理子

目的	現場で必須である、Excelを使用しての簡単な表作成やWordを使用してのビジネス文書の作成(社内・社外文書等)等、PCと一般的な事務知識を習得する また、日本情報処理検定協会主催のWordやExcelの検定試験対策をし、1人でも多くの資格取得を目指したい
----	---

授業概要	前期	後期
		① Excelを使った簡単な表計算
		(SUM, AVERAGE, IF, VLOOKUP, ROUND, MAX, MIN, OR, AND, COUNT等)
		③ グラフの作成
		④ データベース
		⑤ Wordを使った文書作成
		⑥ 社内文書・社外文書作成

評価方法	定期試験をもとに100点満点で採点する。
------	----------------------

教科書 教材	プリントを使用する		
-----------	-----------	--	--

その他	
-----	--

教科名 建築史

	前期	後期
コマ数	1	

総時数	36
-----	----

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 井澗裕

目的	日本建築史および西洋建築史について建築様式の歴史的潮流を概観し、時代背景や地域的特色を視野に入れつつ、その特色・成立過程・歴史的な意義を理解させる。それと同時に、構造とデザインの相関性をふまえた空間認識能力を養い、様式をふまえたデザインリソースを取得させる。
----	---

授業概要	前期	後期
	① オリエンテーションと基礎知識	①
② 日本建築史 古代①神社建築	②	
③ 日本建築史 古代②寺院建築	③	
④ 日本建築史 中世①古代都市と貴族住宅	④	
⑤ 日本建築史 中世②平安から鎌倉期の宗教建築	⑤	
⑥ 日本建築史 近世① 書院・茶室と数寄屋	⑥	
⑦ 日本建築史 近世② 霊廟・城郭	⑦	
⑧ 西洋建築史 古代エジプト建築	⑧	
⑨ 西洋建築史 古代ギリシア建築	⑨	
⑩ 西洋建築史 古代ローマ建築	⑩	
⑪ 西洋建築史 初期キリスト教・ビザンチン	⑪	
⑫ 西洋建築史 ロマネスクとゴシック	⑫	
⑬ 西洋建築史 ルネサンスとマニエリスム	⑬	
⑭ 西洋建築史 バロックとロココ	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	中間テストと期末テストの平均点数(80%)および出席点(20%)により評価する。
------	--

教科書 教材	教科書 建築史(文教出版)	教材	備考

その他	
-----	--

syllabus

教科名 都市計画概論

	前期	後期
コマ数		1

総時数	38
-----	----

開講学科 建築学科2年

担当教員 井澗裕

目的	太田道灌から東京オリンピック(1964年)にいたる江戸・東京の都市計画史を通観し、近世～近代日本の都市計画技術・思潮の発展過程を理解させる。それと同時に、産業革命以降の都市問題の解決策として発達した近代都市計画思潮を概観し、それが東京をはじめとした都市の基礎的な構造となっていることを理解させる。
----	--

	前期	後期
授業概要	①	① オリエンテーションと基礎知識
	②	② 都市計画とは何か
	③	③ 江戸の都市計画① 太田道灌と徳川家康
	④	④ 江戸の都市計画② 江戸の構造と明暦の大火
	⑤	⑤ 近代都市計画思潮① 産業革命と都市問題
	⑥	⑥ 近代都市計画思潮② ユートピアと社宅街
	⑦	⑦ 近代都市計画思潮③ ハワードとコルビジェ
	⑧	⑧ 東京の都市計画 明治① 銀座煉瓦街
	⑨	⑨ 東京の都市計画 明治② 日比谷官庁街計画
	⑩	⑩ 東京の都市計画 明治③ コンドルと市区改正
	⑪	⑪ 東京の都市計画 大正① 関東大震災と復興計画
	⑫	⑫ 東京の都市計画 大正② スプロールと沿線開発
	⑬	⑬ 東京の都市計画 昭和① 緑地帯と東京大空襲
	⑭	⑭ 東京の都市計画 昭和② 東京オリンピック
	⑮	⑮

評価方法	中間テストと期末テストの平均点数(80%)および出席点(20%)により評価する。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	東京のまちづくり(彰国社)		

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 山本 崇仁 実務経験: 建築施工管理

目的	建築物の構造体の分類と各種工法についての学習と、各部位の建築専門用語を通して、木造・鉄筋コンクリート造・鉄骨造等の基本を学び、建築施工との関連を理解することを目標とする。施工管理の実務経験を通じて、最低限建築の仕事で困らない程度の知識は全体的に押さえ、建築士試験の問題の範囲も盛り込んでいく。
----	--

授業概要	前期	後期		
	①	・建築工法の変遷 ・構造、構法の分類	①	・RCの構造形式と構造原理 ・コンクリートの材料構成
	②	・各種構造の特徴 ・設計図書	②	・鉄筋の種類と強度 ・鉄筋の加工、かぶり厚さ、定着
	③	・木材の性質、強度 ・製材の呼称、木材の変形	③	・ラーメン構造の構成 ・基礎の種類
	④	・軸組み工法の部材構成	④	・柱の構成 ・梁の構成と配筋
	⑤	・建て方順序、仕口	⑤	・スラブの構成 ・壁の構成
	⑥	・地盤調査、配筋、やりかた	⑥	・内外装各部の仕上げ ・階段の構成
	⑦	・基礎の構成 ・柱の構成、小径、緊結	⑦	・壁式構造 ・鉄骨鉄筋コンクリート工法
	⑧	・小屋組みの構成 ・屋根の形状と名称	⑧	・鉄骨造の構造形式 ・鋼材の形状と柱、梁の種類
	⑨	・筋交いの構成、四分割法、壁量計算	⑨	・接合方法(高力ボルト接合) ・架構の構成と建て方
	⑩	・壁の構成 ・床の構成	⑩	・床、外壁の構成
	⑪	・接合方法、金物の種類	⑪	・内部空間名称、外部空間名称
⑫	内部構成、外部構成			

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確認するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	図解 建築の工法と構造 改定版 井上書院	確認テスト(毎授業配布)	

その他	二級建築士学科試験の構造と施工に関連する内容となる。
-----	----------------------------

	前期	後期	総時数
コマ数	1	1	74

開講学科 **建築設計デザイン科 2年**
建築学科 2年

担当教員 **前川 新一**

目的	建築材料学は、建築空間を構成する基本となる素材の学習である。建築材料を構造材料と仕上材料に大別し、材料の歴史的な使用方法から、現在の新しい構造・構法などを通して用いられる材料の特性・使用方法を学び、資源の枯渇・環境問題等、今後の建築材料のあり方など、現在の現場における仕様を教える。
----	---

授業概要	前期 ① 1-1 建築と建築材料 1 建築材料の歴史 ② 2 建築材料と規格 3 建築材料と環境 1-2 建築材料の分類 ③ 1-3 建築材料と性能 2-1 木材 1 木材の使われ方 ④ 2 木材の種類と用途 3 木材の特徴(性質)① ⑤ 3 木材の特徴(性質)② ⑥ 4 木取り、規格、等級① ⑦ 4 木取り、規格、等級② 5 集成材 ⑧ 2-2 鋼材 1 鋼材の使われ方と特徴 2 鋼材の種類 3 鋼材と加工 ⑨ 4 鋼材の性質と用途 5 鋼材の規格 6 ステンレス鋼 ⑩ 7 接合 2-3 コンクリート 1 コンクリートの使われ方 ⑪ 2 セメント 3 骨材 ⑫ 4 水 5 コンクリート① ⑬ コンクリート (まとめ) ⑭ ⑮	後期 ① 5 コンクリート② 6 混和材料 ② 7 コンクリートの種類 ③ 3-1 仕上げ材料(概要) 3-2 木、竹製品 ④ 3-3 セメント・コンクリート・せっこう製品 ⑤ 3-4 金属製品 ⑥ 3-5 タイル・れんが ⑦ 3-6 ガラス 3-7 石材 ⑧ 3-8 左官・仕上塗材 3-9 畳、繊維製品 ⑨ 3-10 プラスチック材料 3-11 塗料 ⑩ 3-12 接着剤 4-1 防水材料の使われ方 4-2 防水材料 ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮
------	--	---

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書 初めての建築材料 (学芸出版社)	教材	備考

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数	74
-----	----

開講学科 建築学科 2年
建築設計デザイン科 2年

担当教員 戸巻 美樹 実務経験: 建築設計

目的	設計の実務経験より建築を取り巻く様々な自然環境や都市環境、また人間の快適条件を学んだ上で、快適な建築環境の作り方・手法を教える。熱・空気・光・音などの基礎知識が実務の設計でどのように有効に使われるかを実例をあげながら説明する。
----	---

授業概要	前期 建築環境の概要	後期
①	建築環境の概要	① 日照と日射①/日照と住環境、太陽の位置
②	② 気候①/気候と建築、気温、湿度	② 日照と日射②/日照と日影の検討(日影曲線、天空率、法的規制)
③	③ 気候②/空気線図、風、雨と雪	③ 日照と日射③/日影図
④	④ 気候③/室内気候(温熱要素、温熱環境の指標)	④ 日照と日射④/日射(直達日射と天空放射、日射熱の流入、日照調整)
⑤	⑤ 伝熱と結露①/伝熱の基礎、熱貫流	⑤ 採光・照明と色彩①/測光量、視覚と見やすさ
⑥	⑥ 伝熱と結露②/熱貫流の計算	⑥ 採光・照明と色彩②/採光(採光率、採光計画)
⑦	⑦ 伝熱と結露③/断熱の効果、断熱の計算	⑦ 採光・照明と色彩③/照明(照明計算、照明計画)
⑧	⑧ 伝熱と結露④/熱容量、外断熱と内断熱、蓄熱、結露	⑧ 採光・照明と色彩④/色彩(色の心理的・生理的效果、色彩調節)
⑨	⑨ 換気と通風①/室内の空気汚染	⑨ 音環境①/音の性質(音の発生と伝搬、音の3要素、音の量と単位)
⑩	⑩ 換気と通風②/換気目的、必要換気量・換気回数計算	⑩ 音環境②/遮音と吸音(遮音、吸音、吸音機構)
⑪	⑪ 換気と通風③/自然換気(風力換気・重力換気)、通風	⑪ 音環境③/騒音と振動(騒音・振動とその影響、遮音対策、振動防止計画)
⑫	⑫ 換気と通風④/換気の種類、換気に関する法規、通風	⑫ 音環境④/室内音響
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	初めての建築環境(学芸出版社)		

その他	
-----	--

教科名 建築計画

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数	74
-----	----

開講学科 建築学科 1年
建築設計デザイン科 1年

担当教員 横田 勉

目的	建築分野全般の基礎となる建築計画の知識を、建築用途ごとの具体例を通して身につける。また、資格試験(二級建築士試験、公務員試験等)に対応した内容とする。さらに、実務で必要とされる、基本設計レベルでの設計図の読解力を養う。
----	---

授業概要	前期	後期
	① 建築計画と設計の概要	① 社会教育施設の計画(1) …地域計画とコミュニティ施設、社会教育施設の役割
	② 居住施設の計画(1) …住宅の歴史、戸建て住宅の配置計画と平面の類型	② 社会教育施設の計画(2) …公共図書館の役割、地域図書館の計画
	③ 居住施設の計画(2) …戸建て住宅の各室計画と規模計画	③ 社会教育施設の計画(3) …図書館の計画演習
	④ 居住施設の計画(3) …戸建て住宅の計画演習	④ 社会教育施設の計画(4) …美術館の計画
	⑤ 居住施設の計画(4) …団地計画	⑤ 社会教育施設の計画(5) …公民館・コミュニティセンターの計画
	⑥ 居住施設の計画(5) …集合住宅の種類	⑥ 商業施設の計画(1) …事務所ビルの計画
	⑦ 細部計画 …人間の基本動作、各部の寸法計画	⑦ 商業施設の計画(2) …劇場・音楽ホール of 計画
	⑧ 高齢者・障がい者に配慮した建物(バリアフリー)について	⑧ 商業施設の計画(3) …大規模小売店舗の計画
	⑨ 学校教育施設の計画(1) …幼稚園の計画	⑨ 商業施設の計画(4) …宿泊施設の全体計画と各室計画
	⑩ 学校教育施設の計画(2) …幼稚園の各室計画	⑩ 商業施設の計画(5) …宿泊施設の計画演習
	⑪ 学校教育施設の計画(3) …学校の歴史、小学校・中学校の計画	⑪ 後期のまとめ
	⑫ 学校教育施設の計画(4) …校舎の計画、新しい教育形態への対応	⑫
	⑬ 前期のまとめ	⑬
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験(計4回)による100点満点の平均点数。他に、計画演習、出席率、授業態度等を加味する。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	初学者の建築講座 建築計画 (市ヶ谷出版社)		

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 **建築学科1年・建築設計デザイン科1年 共通**

担当教員 **矢野 倫大**

実務経験: **建築設計**

目的	わが国の建築に関する法律の目的・役割を理解した上で、条文の構成・表現を学び、建築基準法の基本的な知識を身に付けることをねらいとする。担当教員の一級建築士の実務経験をもとに、個々の建築物に対する規定である単体規定について説明し、建築物を計画・設計するうえで必要な法律上の知識を身につける。また、建築施工 I の授業の内容を踏まえ、各種手続についても学ぶ。
----	--

授業概要	前期	後期
	① 建築基準法の概要 1)建築法規の体系 2)法令集のセットアップ	① 防火に関する材料 1)不燃材料、準不燃材料、難燃材料 2)耐水材料
	② 用語の定義① 1)建築物の定義 2)特殊建築物の定義	② 耐火建築物・準耐火建築物 1)耐火建築物の要件 2)準耐火建築物の要件
	③ 用語の定義② 延焼のおそれのある部分	③ 内装制限① 1)内装制限を受ける建築物 2)内装制限を受ける特殊建築物
	④ 用語の定義③ 1)主要構造部 2)耐火・防火 3)耐火性能の技術的基準	④ 内装制限② 1)内装制限を受ける大規模な建築物 2)内装制限を受ける火気使用室、無窓の居室
	⑤ 用語の定義④ 1)建築面積の算定 2)床面積の算定 3)延べ面積の算定	⑤ 内装制限③ 1)法別表1の特殊建築物の内装制限 2)自動車庫等、特殊建築物の地階の居室の内装
	⑥ 用語の定義⑤ 1)地盤面 2)建築物の高さ 3)軒の高さ・地階	⑥ 手続き① 1)確認申請の概要 2)建築手続きに関する用語 3)規模により確認申請を必要とする建築物
	⑦ 一般構造① 1)居室の定義 2)天井高さ 3)床高さ・床下の換気	⑦ 手続き② 1)工作物の確認申請 2)仮設建築物の確認申請 3)用途変更する場合の確認申請
	⑧ 一般構造② 1)用途地域の概要 2)居室の採光に関する規定	⑧ 手続き③ 1)中間検査 2)完了検査 3)仮使用の申請
	⑨ 一般構造③ 1)居室の採光に関する計算 2)採光を確保するために必要な距離の算定	⑨ 手続き④ 1)違反建築物の建築の防止 2)届出及び統計 3)その他各種手続き
	⑩ 一般構造④ 1)居室の換気の概要 2)自然換気設備 3)機械換気設備	⑩ 防火地域・準防火地域内の建築制限
	⑪ 一般構造⑤ 1)中央管理方式の空調設備 2)特殊建築物の居室の換気設備 3)火気使用室	⑪ 防火地域・準防火地域の内外に関わらず耐火建築物・準耐火建築物にしなければならない建築物
⑫ 一般構造⑥ 1)住宅の階段の寸法と屋外階段の幅 2)住宅以外の建築物の階段に関する寸法規定		

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル6割、中級レベル3割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確保するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	--

教科書 教材	教科書 建築関係法令集 法令編 (総合資格学院)	教材 講師オリジナルプリント	備考

その他	二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。
-----	---

教科名 建築法規Ⅱ

	前期	後期
コマ数	1	-

総時数
36

開講学科 建築学科2年・建築設計デザイン科2年 共通

担当教員 矢野 倫大

実務経験: 建築設計

目的	1年次の建築法規Ⅰに引き続き、二級建築士学科試験の法規の出題範囲における防火および避難の規定について、その規定が必要な理由を考えながら学習することにより、法令の目的と内容をより深く理解することをねらいとする。後半では、集団規定について学習し、担当教員の一級建築士の受験経験をもとに作成した演習問題を繰り返し解くことで2級建築士学科試験に合格するための必要な知識の習得を目標とする。
----	--

授業概要	<p>前期</p> <p>① 防火区画① 1)防火区画の概要 2)高層階区画(令112条5項~8項) 3)竖穴区画(令112条9項)</p> <p>② 防火区画② 1)異種用途区画(令112条12項・13項) 2)面積区画の概要 3)面積区画(令112条1項~4項)</p> <p>③ 避難規定① 1)避難規定の概要(令117)条 2)避難経路 3)避難のための直通階段</p> <p>④ 避難規定② 1)メゾネット型住戸の歩行距離 2)2以上の直通階段を設けなければならない建築物</p> <p>⑤ 避難規定③ 1)重複区間の制限 2)避難階・屋上広場の規定 3)非常用の照明装置 4)非常用の進入口</p> <p>⑥ 道路① 1)道路の定義 2)位置指定道路 3)4m未満の道(2項道路)</p> <p>⑦ 道路② 1)道路と敷地との関係 2)道路内の建築制限 3)その他の制限</p> <p>⑧ 容積率① 1)延べ面積の限度の求め方 2)敷地が2以上の用途地域にわたる場合</p> <p>⑨ 容積率② 1)特定道路に接続する道路に接する場合の容積率の算定 2)「容積率算定用の延べ面積」の特例</p> <p>⑩ 容積率③ 1)建ぺい率の緩和・適用除外 2)敷地が防火地域の内外にわたる場合</p> <p>⑪ 用途地域① 1)用途地域の概要 2)用途地域内の建築制限 3)用途制限チェックのポイント</p> <p>⑫ 用途地域② 1)店舗併用住宅 2)建築物の敷地が異なる用途地域内にわたる場合</p> <p>⑬ 高さ制限の概要</p>	
------	---	--

評価方法	中間試験と期末試験を実施し、100点満点の平均点で前期と後期の評価とする。各試験は初級レベル5割、中級レベル4割、上級レベル1割の出題構成とし、合格は50点以上とする。尚、毎回の授業で理解度を確保するための小テストを実施するが、成績には加味しない。
------	--

教科書 教材	教科書 建築関係法令集法令編 (総合資格学院)	教材 講師オリジナルプリント	備考
-----------	-------------------------------	-------------------	----

その他	二級建築士学科試験の法規に関連する内容となる。定期試験の際、法令集は持ち込み可とする。
-----	---

	前期	後期
コマ数	2	2

総時数
148

開講学科 建築学科1年

担当教員 佐藤 嘉彦

目的	安全で長持ちする建築物を造るために必要な構造基礎知識を教える。また架構に於ける力の流れと構造バランスを学生が理解することを目標とする。長期にわたり建築物架構が安定していること、地震等の外的要件に耐えることが大切なことを教える。
----	---

授業概要	前期	後期
	① 力の基本・構造物に働く力	① 静定ラーメン 片持梁系ラーメン
	② 構造物と荷重及び外力	② 静定ラーメン 単純梁系ラーメン
	③ 力の合成と分解 力の三角形	③ 静定ラーメン 3ピン式ラーメン
	④ 力の合成と分解 示力図・連力図	④ 静定トラス 節点法
	⑤ 力の合成と分解 バリニオンの定義	⑤ 静定トラス 図式解法
	⑥ 力のつり合い・反力	⑥ 静定トラス 切断法
	⑦ 構造物の安定・不安定 静定・不静定	⑦ 部材の性質と応力度 垂直応力度・せん断応力度
	⑧ 構造物に生じる力 軸方向力・せん断力	⑧ 構造材料の力学的性質 ひずみ度・フックの法則・ヤング係数
	⑨ 構造物に生じる力 曲げモーメント	⑨ 構造材料の力学的性質 許容応力度
	⑩ 静定梁 単純梁 集中荷重	⑩ 構造材料の力学的性質 断面一次モーメント
	⑪ 静定梁 単純梁 等分布荷重	⑪
	⑫ 静定梁 片持梁	⑫
	⑬ 前期まとめ	⑬
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数により評価する。授業態度による減点あり(-3点/-5点)。
------	--

教科書 教材	教科書 建築構造設計概論(実務出版)	教材 オリジナルプリント	備考

その他	二級建築士・一級建築士の資格取得を目指す。授業の初めにその講義の重要ポイントを説明するので、授業時間内に理解するように努めること。
-----	---

教科名 構造力学Ⅱ

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築学科・建築設計デザイン科 2年

担当教員 小林 清繁

目的	建築物に働く力の基本的な知識を習得し、実際の構造物を合理的に設計するうえで、必要な基礎的なことを学び、部材に生ずる力に対して、安全かつ経済的な部材を設計する基礎を学ぶ。
----	--

授業概要	前期 静定トラス ① 節点法・切断法の解法	後期	①
	② 部材の性質と応力度 1. 垂直応力度 2. せん断応力度		②
	③ 弾性体の性質 材料の強さと許容応力度		③
	④ 断面一次モーメントと図心 断面二次モーメント		④
	⑤ 断面係数 断面二次半径・断面の主軸		⑤
	⑥ 曲げモーメントを生じる部材 中間試験傾向と対策		⑥
	⑦ 曲げ応力度 曲げ材の設計		⑦
	⑧ 引張応力度 引張材の設計		⑧
	⑨ 長柱と座屈 1. 圧縮材の設計 2. 組合せ応力		⑨
	⑩ たわみとたわみ角 モールの定理		⑩
	⑪ 不静定梁の反力 不静定梁の応力		⑪
	⑫ たわみ角法 期末試験傾向と対策		⑫
	⑬		⑬
	⑭		⑭
	⑮		⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数を90%、小テストの平均点数の10%の合計100%で評価
------	---

教科書 教材	教科書 建築構造設計概論(実教出版)	教材	備考

その他	
-----	--

教科名 建築施工 I

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 建築学科1年
建築設計デザイン科1年

担当教員 田淵 友也 実務経験:建築施工管理

目的	授業のねらい 実務経験から、建築工事の工種と工法について、安全管理を念頭に入れた技術的・経済的な内容についての学習。入札・落札・請負契約から始まり、着工から竣工までの施工を他工事との関連を理解しながら学ぶ。
----	--

授業概要	前期	後期
	① 1章 建築の施工 I 概要	① IIコンクリートの運搬と打込み
	② II 施工業者の選定 III 施工計画(調査・準備)	② 6章 型枠工事 I 型枠工事
	③ III 施工計画 (工程管理・工事管理・安全他)	③ II 型枠の設計 III 型枠の加工と組立(加工)
	④ IV 地盤調査	④ III 型枠の加工と組立 (組立・検査・取外し)
	⑤ 2章 仮設工事 I ~ III(種類・共通・直接)	⑤ 7章 鉄筋工事 I 鉄筋工事 II 配筋の方法
	⑥ III 直接仮設(足場他) IV・V 工事中用電気・給排水・機械	⑥ III 加工と組立 (加工・圧接)
	⑦ 3章 土工事 I 土工事 II 山留工事(計測・規則)	⑦ III 加工と組立(組立) IV 配筋検査
	⑧ II 山留 (工法・材料・設計・破壊)	⑧ 8章 鉄骨工事 I 鉄骨工事の計画 II 工作
	⑨ 4章 地業工事と地盤改良工事 I 地業工事(地業種類・杭種類設置)	⑨ III 接合
	⑩ I 地業種類(場所打ち杭他) II 地盤改良工事	⑩ IV 工事現場施工 V 鉄骨関連工事
	⑪ 5章 コンクリート工事 I コンクリートの品質と種類(種類・強度・材料他)	⑪ ◎全体のまとめ並びにポイント解説
⑫ I コンクリートの品質と種類 (用語・調合・検査試験・劣化)		

評価方法	①.中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 ②.授業成績(小テスト他・出欠率・態度)±5点 ①+②の合計を成績点数とする。ただし100点を超える場合は100点とする
------	--

教科書 教材	教科書 建築施工テキスト (井上書院)	教材	備考

その他	
-----	--

教科名 **建築施工Ⅱ**

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 **建築学科 2年**
建築設計デザイン科 2年

担当教員 **出口 広訓**

目的	建築工事の進め方と管理についての技術的・経済的な内容について教える。各種工事の施工方法について最新の技術を教える。特に、設計監理者としての立場からの事例や注意点等をあげ、安全管理をはじめ、デザインや経済性、材料の特性などについて具体的かつ包括的な視点を持たせ理解させる。
----	---

授業概要	前期	後期
	①	①
	②	②
	③	③
	④	④
	⑤	⑤
	⑥	⑥
	⑦	⑦
	⑧	⑧
	⑨	⑨
	⑩	⑩
	⑪	⑪
	⑫	⑫
	⑬	⑬
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	建築施工テキスト(井上書院)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数	74
-----	----

開講学科 **建築学科 2年**
建築設計デザイン科 2年

担当教員 **今 治宣** 実務経験: **建築構造設計**

目的	実務経験から構造計画、構造設計の基礎知識を教える。 鉄筋コンクリート構造、鉄骨造に関して、二次部材の断面算定等の部材設計の流れを理解させ、二級建築士受験程度の知識を教えることに重点をおく。
----	---

授業概要	前期	後期
①	構造力学における基本知識の確認と復習	① 鋼構造④ 3)小梁の設計-2
②	鉄筋コンクリート構造① 1)RC概論-1	② 鋼構造⑤ 3)小梁の設計-3 4)各部材設計の概要
③	鉄筋コンクリート構造② 1)RC概論-2	③ 鋼構造⑥ 5)二級建築士過去問題演習-1
④	鉄筋コンクリート構造③ 3)仮定荷重 4)床の設計-1	④ 鋼構造⑦ 5)二級建築士過去問題演習-2
⑤	鉄筋コンクリート構造④ 4)床の設計-2	⑤ 鋼構造⑧ 5)二級建築士過去問題演習-3
⑥	鉄筋コンクリート構造⑤ 4)床の設計-3	⑥ 構造計画と荷重① 1)構造計画概論-1
⑦	鉄筋コンクリート構造⑥ 5)各部材設計の概要 6)二級建築士過去問題演習-1	⑦ 構造計画と荷重② 1)構造計画概論-2 2)荷重概論
⑧	鉄筋コンクリート構造⑦ 6)二級建築士過去問題演習-2	⑧ 構造計画と荷重③ 3)地震力と保有水平耐力
⑨	鉄筋コンクリート構造⑧ 6)二級建築士過去問題演習-3	⑨ 構造計画と荷重④ 5)二級建築士過去問題演習-1
⑩	鉄筋コンクリート構造⑨ 6)二級建築士過去問題演習-4	⑩ 構造計画と荷重⑤ 5)二級建築士過去問題演習-2
⑪	鋼構造① 1)S概論-1	⑪ 構造計画と荷重⑥ 5)二級建築士過去問題演習-3
⑫	鋼構造② 1)S概論-2 2)引張材と圧縮材の設計-1 鋼構造③	⑫
⑬	2)引張材と圧縮材の設計-2 3)小梁の設計-1	⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による評価 (評価対象は定期試験結果100%とする)
------	--

教科書 教材	教科書 建築構造設計概論(実教出版)	教材 演習問題(講師オリジナル) 二級建築士過去問題	備考
-----------	-----------------------	----------------------------------	----

その他	二級建築士試験の学科Ⅲのうち、鉄筋コンクリートと鉄骨造に関しては8割以上の正解率を目指す
-----	--

教科名 **建築積算**

	前期	後期
コマ数	1	1

総時数
74

開講学科 **建築学科 2年**

担当教員 **前川 新一**

実務経験: **建築設計・施工・積算**

目的	積算の基礎ともいえる設計図書から、建築物の数量を計測・計算する方法を教え、実務経験上の事例を踏まえ、建築の生産活動をコスト面からマネジメント(管理)するという基本的な考え方を理解することを目的とします。 建築積算士補の取得。
----	---

授業概要	前期	後期
	① 建築積算とは (建築生産活動と積算)	① 数量の計測・計算(土工) (土工・地業の数量計算の仕方)例題演習
	② 建築生産プロセスの概要と建築積算①	② 数量の計測・計算(躯体1) (基礎の数量計算の仕方)例題演習
	③ 建築生産プロセスの概要と建築積算②	③ 数量の計測・計算(躯体2) (梁の数量計算の仕方)例題演習
	④ 入札とは (入札の種類 工事の発注・契約方式 数量公開)	④ 数量の計測・計算(躯体3) (柱の数量計算の仕方)例題演習
	⑤ 積算業務の概要 (積算業務の流れ)	⑤ 数量の計測・計算(躯体4) (床板の数量計算の仕方)例題演習
	⑥ 入札とは・積算業務の流れ (まとめ)	⑥ 数量の計測・計算(仕上1) (例題演習による仕上げ積算)
	⑦ 設計図書とは① (設計図書の構成と種類)	⑦ 数量の計測・計算(仕上2) (例題演習による仕上げ積算)
	⑧ 設計図書とは② (仕様書等の種類と優先順位)	⑧ 仮設工事の積算 設備工事の積算 建築積算の応用分野
	⑨ 工事費の構成 (工事費とは何か)	⑨ 建築積算士補1
	⑩ 建築コストにおける数量と単価	⑩ 建築積算士補2
	⑪ 内訳書とは	⑪
	⑫ 内訳書の作成	⑫
	⑬ 建築数量積算基準	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価 後期期末試験は、建築積算士補の資格試験兼用とする
------	--

教科書 教材	教科書 建築積算 (日本建築積算協会)	教材 建築積算(別冊)	備考

その他	
-----	--

教科名 建築測量

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 建築学科 2年

担当教員 前川 新一

目的	地表上の必要な諸点相互の関係位置をはかり、図面上の諸点や線を設定する作業をおこなう測量に関する、機械・器具の構造や操作と、距離・角度・高さを測定するために必要な知識、測定方法及び作業技術、さらに建築の工事現場で行われている工事測量の基本を教える。
----	---

授業概要	前期 ① 1章 建築と測量の関わり 1建築測量とは2 測量技術のあゆみ 3測量の基準・分類 ② 2章 測量の計算 1 数値計算 ③ 2章 測量の計算 2 三角関数と角度 3角度の換算・電卓での計算 ④ 3章 敷地の距離測量 1距離の定義・分類・器具 2平坦地・傾斜地の測量 ⑤ 3章 敷地の距離測量 3距離測量誤差と許容誤差 4距離測量 ⑥ 4章 敷地の面積測量 1 平板測量に用いる器具 2平板の標定 ⑦ 4章 敷地の面積測量 3平板測量による面積測量 4平板の誤差と精度 5面積の計算方法 ⑧ 5章 敷地の水準測量 1水準測量の分類・器具等 2野帳の記入方法 ⑨ 5章 敷地の水準測量 3水準測量演習 ⑩ 6章 トランシット測量 1トランシット測量の概要 2トランシットの構造 ⑪ 6章 トランシット測量 3水平角の測定実習 ⑫ 7章 工事測量 1 標示の方法 ⑬ 7章 工事測量 2 各種工事の測設 ⑭ ⑮
------	---

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点
------	------------------------

教科書 教材	教科書 図説建築測量(産業図書)	教材	備考

その他	
-----	--

教科名 **建築設備 I**

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 **建築学科1年**

担当教員 **佐藤 護** 実務経験 **建築設備設計施工管理**

目的	近年、建築物に於ける設備の重要性は益々高くなって来ており、建築技術者として設備技術の習得は欠かせないものとなっている。本講座では担当教員の「建築設備士」「1級管工事施工管理技士」の資格や実務経験を基に冷暖房、空調、換気、給排水衛生設備全般の基礎知識を身に付けさせ建築現場で、実務を支障なく行う手助けとなるよう指導する。
----	---

授業概要	前期	後期
		① 給排水、衛生設備の概要説明。空気調和、換気設備の概要説明
		② 水源の種類、上水施設、水質基準、使用水量の求め方について説明
		③ 給水方式の説明。受水タンク、高置タンクの容量決定法について説明
		④ ポンプ容量の決定法、給水設備に使用される機器材料について説明
		⑤ 給湯温度、給湯量の求め方。加熱器能力、給湯タンク容量の求め方説明
		⑥ 給湯方式、配管方式について。給湯設備に使用される機器材料について説明
		⑦ 排水の種類、排水の方式について。排水系統、間接排水について説明
		⑧ トラップの目的、種類、破封現象。通気方式、排水に使用される機器材料の説明
		⑨ 消火原理、消火設備の種類、法規制屋内消火栓設備の技術基準について
		⑩ スプリンクラ設備、特殊消火設備。衛生器具の構造と機能について説明
		⑪ し尿浄化槽の概要、処理機能について
	⑫ BOD、BOD除去率の説明	
	ガスの種類、ガス燃焼機器の種類とその換気について説明	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書 絵とき建築設備(オーム社)	教材	備考

その他	
-----	--

教科名 **建築設備Ⅱ**

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 **建築学科2年**

担当教員 **佐藤 護** 実務経験 **建築設備設計施工管理**

目的	近年、建築物に於ける設備の重要性は益々高くなって来ており、建築技術者として設備技術の習得は欠かせないものとなっている。本講座では担当教員の「建築設備士」「1級管工事施工管理技士」の資格や実務経験を基に冷暖房、空調、換気、給排水衛生設備全般の基礎知識を身に付けさせ建築現場で、実務を支障なく行う手助けとなるよう指導する。
----	---

授業概要	前期	後期
	①	伝熱現象。顕熱、潜熱について。暖房設備の種類、各種暖房設備の特
	②	設計条件、損失熱量計算法。熱貫流率の求め方について説明
	③	損失熱量計算法(すきま風の計算について)。損失熱量計算例
	④	蒸気暖房の概要、分類。温水暖房の概要、分類。
	⑤	放射暖房、温風暖房の概要。ボイラ、放熱器の種類
	⑥	空調設備の定義について。空調設備の構成(定風量単一ダクト方式)
	⑦	取得熱量計算法(冬季損失熱量計算と夏季取得熱量計算との相違
	⑧	空気線図の構成と使用法について。空調の計算と空気線図。
	⑨	冷凍原理、冷凍機の種類について。冷凍機的能力表示(冷凍トン)
	⑩	冷却塔の原理、種類について。
	⑪	ダクトの種類、構造について。
⑫	換気の種類、法規制について。	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点評価
------	----------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	絵とき建築設備(オーム社)		

その他	
-----	--

教科名 電気設備

	前期	後期
コマ数	1	

総時数
36

開講学科 建築学科 1年

担当教員 沖 博文

目的	<p>交流と直流の違いといったきわめて基礎的な説明から、建物の機能または性能の源となる電気設備について、ほとんど基礎知識のない初心者でも十分に理解できるように説明する。特に建築電気設備の重要性が一層高まるなかで、快適環境を形成する技術としての電気設備について、最新の情報をふまえて理解させる。</p>
----	--

授業概要	<p>前期 建築電気設備の概要 電気の一般知識</p> <p>①</p> <p>電気の基礎1 電子と電流、オームの法則</p> <p>②</p> <p>電気の基礎2 抵抗の接続と合成抵抗値 直流回路とブリッジ回路</p> <p>③</p> <p>電力と電力量 電流の発熱作用、電力量と熱量の関係</p> <p>④</p> <p>交流の基礎 直流と交流、交流の周波数について、交流回路の基本</p> <p>⑤</p> <p>交流の電力 単相交流回路の電力と力率</p> <p>⑥</p> <p>電気の保安と電気方式 電気用品安全法と電気工事士法、単相三線</p> <p>⑦</p> <p>電線の種類と許容電流 電線・ケーブルの種類、電線工事の種類</p> <p>⑧</p> <p>屋内幹線について 幹線の許容電流、需要率、幹線の施設・太さ</p> <p>⑨</p> <p>分岐回路と接地工事 分岐回路の施設・種類、電路の絶縁・接地</p> <p>⑩</p> <p>照明の基礎 蛍光灯、LED 照度計算、照明方式</p> <p>⑪</p> <p>住宅の配線図 電灯配線図、配線図用図号</p> <p>⑫</p>	
------	---	--

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数
------	-------------------------

教科書 教材	教科書 建築設備(オーム社)	教材 関連内容の演習プリント	備考

その他	
-----	--

教科名 **建築士講座 計画**

	前期	後期	総時数 38
コマ数		1	

開講学科 **建築学科 2年**

担当教員 **戸巻 美樹** 実務経験: **建築設計**

目的	2級建築士学科試験の学科 I 計画問題を今まで学習してきた建築計画・建築史・環境工学・建築設備の内容を再確認しつつ、実務経験からの事例など実務で必要となる知識を意識して、理解する。過去の出題問題を中心に、出題傾向と解き方も覚える。
----	---

授業概要	前期	後期
	①	① 環境① 気候・空気
②	② 環境② 熱、光	
③	③ 環境③ 音、色彩	
④	④ 環境④ 環境全般、用語、単位	
⑤	⑤ 設備① 空気調和設備、給水設備	
⑥	⑥ 設備② 排水・衛生設備、電気設備、照明設備	
⑦	⑦ 設備③ 消火・防災設備、省エネルギー	
⑧	⑧ 設備④ 設備用語、設備融合	
⑨	⑨ 計画① 住宅建築、商業建築、公共建築	
⑩	⑩ 計画② 各種建築、建築生産、都市計画、計画各論	
⑪	⑪ 建築史 日本建築史、建築史融合	
⑫	⑫ 総合問題	
⑬	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数で評価する。
------	-------------------------------

	教科書	教材	備考
教科書 教材		2級建築士試験学科 ポイント整理と確認問題 (総合資格学院)	

その他	
-----	--

教科名 **建築士講座(建築法規)**

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 **建築学科2年**

担当教員 **森 雅宏**

実務経験: **建築設計**

目的	2級建築士試験対策の一環として、建築法規Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を試験問題の演習形式で復習する。実務経験をもとに特に重要なポイントを解説する。
----	--

授業概要	前期	後期
	①	
②		② 一般構造 ・構造強度
③		③ 防火と内装制限 ・避難規定
④		④ 集団規定 ・道路と敷地
⑤		⑤ 用途地域 ・建ぺい率・容積率
⑥		⑥ 高さ制限 ・防火地域
⑦		⑦ 手続き規定 ・確認と許可
⑧		⑧ 工事の着工と完了 ・罰則規定
⑨		⑨ 関連法規 ・都市計画法
⑩		⑩ 消防法 ・バリアフリー法
⑪		⑪ 品確法 ・耐震改修促進法
⑫		⑫ 建築士法 ・建設業法
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数で評価する。
------	-------------------------------

教科書 教材	教科書 建築関係法令集 オリジナルプリント	教材	備考

その他	
-----	--

教科名 建築士講座 構造

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 建築学科 2年

担当教員 秋谷 智史

目的	2級建築士学科試験の「構造」について、過去問分析による傾向と合格に必要なポイントをおさえた学習方法を教える。短期間の中で、特に力学の計算問題について、基礎的事項の整理とともに問題が解ける理解力がつくようになることを目的とする。
----	---

授業概要	前期	後期
	①	① 試験概要説明
②	② 力のつり合い	
③	③ 静定梁の反力	
④	④ 静定ラーメンの反力	
⑤	⑤ 演習問題	
⑥	⑥ 静定梁の応力	
⑦	⑦ 静定ラーメンの応力	
⑧	⑧ 演習問題	
⑨	⑨ 断面一次モーメント	
⑩	⑩ 断面2次モーメント	
⑪	⑪ 演習問題	
⑫	⑫	
⑬	⑬	
⑭	⑭	
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数による評価
------	------------------------------

	教科書	教材	備考
教科書 教材	建築構造設計概論(実教出版)	演習問題(講師オリジナル) 二級建築士過去問題	

その他	2級建築士試験
-----	---------

教科名 **建築士講座(施工)**

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 **建築学科2年**

担当教員 **田淵 友也**

実務経験 : **建築施工管理**

目的	授業のねらい 実務経験を基に卒業後に受験する二級建築士の学科試験の対策として、知識習得及び建築施工全般の復習を目的とする。過去の問題を種目別に分類し、傾向をつかみながら、問題の解答・解説を行う。
----	--

授業概要	前期	後期
		① 第1講 契約・仕様書・申請・届・監理業務
		② 第2講 施工計画・工程管理 ネットワーク工程
		③ 第3講 安全管理・材料管理
		④ 第4講 仮設工事・地盤・杭・土工事
		⑤ 第5講 鉄筋工事, 型枠工事
		⑥ 第6講 コンクリート工事
		⑦ 第7講 鉄骨工事・補強コンクリートブロック工事
		⑧ 第8講 木工事・防水工事
		⑨ 第9講 左官工事, タイル・石工事
		⑩ 第10講 塗装工事・建具・ガラス工事
		⑪ 第11講 内装・断熱工事・設備工事
		⑫ 第12講 各種工事・工法・施工機械
	⑬ 第13講 積算・測量	

評価方法	①.中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 ②.授業成績(小テスト他・出欠率・態度)±5点 ①+②の合計を成績点数とする。ただし100点を超える場合は100点とす
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	・イラストでわかる二級建築士用語集 (学芸出版社)	講師オリジナルプリント	
	・建築施工テキスト (井上書院)		

その他	
-----	--

教科名 **建築士講座設計製図**

	前期	後期	総時数 38
コマ数		1	

開講学科 **建築学科2年**

担当教員 **渋谷 啓二** 実務経験: **建築設計業務**

目的	過去の2級建築士の製図の問題を教材として利用し、2級建築士製図試験における基礎的な作図方法、取組み方を教え、製図試験に必要な知識と理解を深める。特に、実務経験上の問題事例をあげ、2級建築士製図試験の合格の礎となるように課題を進める。
----	--

授業概要	<p>後期</p> <p>① 課題① 配置図兼平面図 敷地、芯、柱の作図</p> <hr/> <p>② 課題① 配置図兼平面図 開口部、壁、家具の作図</p> <hr/> <p>③ 課題① 配置図兼平面図 文字、寸法、外構の作図</p> <hr/> <p>④ 課題① 立面図、計画の要点、面積表の作図</p> <hr/> <p>⑤ 課題① 断面図の作図</p> <hr/> <p>⑥ 課題① 伏図の作図</p> <hr/> <p>⑦ 課題② 配置図兼平面図 敷地、芯、柱の作図</p> <hr/> <p>⑧ 課題② 配置図兼平面図 開口部、壁の作図</p> <hr/> <p>⑨ 課題② 配置図兼平面図 家具・外構の配置計画、作図</p> <hr/> <p>⑩ 課題② 配置図兼平面図 文字、寸法の作図</p> <hr/> <p>⑪ 課題③ 矩計図 レイアウト、芯、補助線、基礎作図</p> <hr/> <p>⑫ 課題③ 矩計図 床・壁・天井・文字・寸法の作図</p>
------	--

評価方法	各課題100点満点で中間1課題 期末2・3課題の平均点数。 課題提出は必須。『完成度』『丁寧さ』『作図不足』等で採点
------	---

教科書 教材	教科書 建築士講座 設計製図	教材 実践課題NO1 実践課題NO3	備考

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築士講座設計製図

	前期	後期
コマ数		1

総時数
38

開講学科 建築学科2年

担当教員 小坂 裕幸

実務経験: 建築設計

目的	過去の2級建築士の製図の問題を教材として利用し、2級建築士製図試験における基礎的な作図方法、取組み方を教え、製図試験に必要な知識と理解を深める。特に、経験上の問題事例をあげ、2級建築士製図試験の合格の礎となるように課題を進める。
----	--

授業概要		後期
		① 課題① 配置図兼平面図 敷地、芯、柱の作図
		② 課題① 配置図兼平面図 開口部、壁、家具の作図
		③ 課題① 配置図兼平面図 文字、寸法、外構の作図
		④ 課題① 立面図、計画の要点、面積表の作図
		⑤ 課題① 断面図の作図
		⑥ 課題① 伏図の作図
		⑦ 課題② 配置図兼平面図 敷地、芯、柱の作図
		⑧ 課題② 配置図兼平面図 開口部、壁の作図
		⑨ 課題② 配置図兼平面図 家具・外構の配置計画、作図
		⑩ 課題② 配置図兼平面図 文字、寸法の作図
		⑪ 課題③ 矩計図 レイアウト、芯、補助線、基礎作図
		⑫ 課題③ 矩計図 床・壁・天井・文字・寸法の作図
		⑬
		⑭
	⑮	

評価方法	各課題100点満点で中間1課題 期末2・3課題の平均点数。 課題提出は必須。『完成度』『丁寧さ』『作図不足』等で採点
------	---

教科書 教材	教科書 建築士講座 設計製図	教材 実践課題NO1 実践課題NO3	備考

その他	
-----	--

教科名 **施工管理講座**

	前期	後期
コマ数	1	0.5

総時数
55

開講学科 **建築学科2年**

担当教員 **田淵 友也**

実務経験：建築施工管理

目的	授業のねらい 実務経験を基に、二級建築施工管理技術検定 学科試験合格のための知識習得及び施工を中心とした建築全般の復習を目的とする。過去の問題を種目別に分類し、傾向をつかみながら、問題の解答・解説を行う。
----	---

授業概要	前期	後期
	① ●法規 建築基準法・建設業法	① ●施工(仕上工事) (防水・屋根・左官・塗装吹付他)
	② ●法規 労働基準法・労働安全衛生法	② ●施工(仕上工事) (石・タイル・硝子・建具・CW・木・金属)
	③ ●施工管理法 施工計画・工程管理	③ ●施工(仕上工事) (内装・その他仕上げ)
	④ ●施工管理法 品質管理・安全管理	
	⑤ ●建築学 建築材料	
	⑥ ●建築学 一般構造	
	⑦ ●建築学 構造力学	
	⑧ ●建築学 計画原論	
	⑨ ●共通 設備他	
	⑩ ●施工(躯体工事) (地盤・仮設・土・山留・基礎地業・鉄)	
⑪ ●施工(躯体工事) (型枠・コンクリート・鉄骨・建設機械)		

評価方法	①.中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 ②.授業成績(小テスト他・出欠率・態度)±5点 ①+②の合計を成績点数とする。ただし100点を超える場合は100点とする
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	2級建築施工管理技士学科		
	問題解説集2019 (日建学院)		

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 **建築学科1年**

担当教員 **前川 尚治**

実務経験: **建築設計**

目的	<p>前期:木造住宅建築図、後期:RC造集合住宅建築図の教材を使用し、実務経験を基に建築図面の見方の習得、製図の基本の習得を目的とし、更に各種構造物の内容の理解を目指す。建築製図の基本である「早く 正しく 美しく」を实践。</p>
----	---

授業概要	前期	後期
	① ドラフター・平行定規の使い方	①
	線の種類とその使い方	②
	レイアウトと線の練習	③
	② 建築図面の描き方の説明	④
	木造住宅の製図:1階平面図・配置図	⑤
	③ 木造住宅の製図:1階平面図・配置図	⑥
	④ 木造住宅の製図:2階平面図	⑦
	⑤ 木造住宅の製図:2階平面図	⑧
	⑥ 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑨
	⑦ 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑩
	⑧ 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑪
	⑨ 木造住宅の製図:矩計図	⑫
⑩ 木造住宅の製図:矩計図	⑬	
⑪ 木造住宅の製図:矩計図	⑭	
⑫ 木造住宅の製図:矩計図	⑮	
	※図面はケント紙(A3)に鉛筆書きとする	

評価方法	課題図の100点満点評価
------	--------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	最新建築設計製図 (井上書院)		

その他	
-----	--

教科名 建築製図演習 I

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築学科1年2組

担当教員 小坂 裕幸

実務経験: 建築設計

目的	<p>前期:木造住宅建築図、後期:RC造集合住宅建築図の教材を使って、建築図面の見方の習得、製図の基本の習得を目的とし、さらに各種構造物の内容の理解を目指す。実際の実施図面や模型を利用して立体的に空間を認識できるように教える。</p>
----	---

授業概要	<p>前期</p> <p>① 1)製図の基本:用具の使い方、線の描き方2)課題1 レイアウトと線の練習</p>	後期
	② 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	①
	③ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	②
	④ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	③
	⑤ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	④
	⑥ 課題2 木造住宅の製図:平面図・配置図	⑤
	⑦ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑥
	⑧ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑦
	⑨ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑧
	⑩ 課題3 木造住宅の製図:立面図・断面図	⑨
	⑪ 課題4 木造住宅の製図:矩計図	⑩
	⑫ 課題4 木造住宅の製図:矩計図	⑪
	⑬ 課題4 木造住宅の製図:矩計図	⑫
	⑭	⑬
	⑮	⑭

評価方法	<p>提出課題による100点満点の平均点数 課題提出90% 出欠席10%、計100%での評価</p>
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
	最新建築設計製図(井上書院)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築製図演習 I

	前期	後期
コマ数		2

総時数
76

開講学科 建築学科 1年

担当教員 林 晴一

実務経験: 建築施工管理

目的	実務経験を基に、鉄筋コンクリート構造の建築製図について、基本的な実務知識と技術を習得することを目指す。鉄筋コンクリート構造の設計図を正しく読み、製図する能力を身につけることを目指す。
----	---

授業概要	前期	後期
	①	
②		② 課題1 平面詳細要素の製図
③		③ RC造の図面の見方書き方
④		④ 課題2 平面詳細図の製図
⑤		⑤ 平面図の表現の仕方
⑥		⑥ 課題3 断面詳細図の製図
⑦		⑦ 断面図の表現の仕方
⑧		⑧ 課題4 展開図の製図
⑨		⑨ 展開図の表現の仕方
⑩		⑩ 最終評価・講評
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	製図のプロセス・提出期限・最終成果図面を総合的に評価する。50点以上を合格とする。
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	最新建築設計製図(井上書院)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 建築製図演習 I

	前期	後期
コマ数		2

総時数
76

開講学科 建築学科 1年

担当教員 山本 崇仁

実務経験: 建築施工管理

目的	実務経験を基に、鉄筋コンクリート構造の建築製図について、基本的な実務知識と技術を習得することを目指す。鉄筋コンクリート構造の設計図を正しく読み、製図する能力を身につけることを目指す。
----	---

授業概要	前期	後期
	①	
②		② 課題1 平面詳細要素の製図
③		③ RC造の図面の見方書き方
④		④ 課題2 平面詳細図の製図
⑤		⑤ 平面図の表現の仕方
⑥		⑥ 課題3 断面詳細図の製図
⑦		⑦ 断面図の表現の仕方
⑧		⑧ 課題4 展開図の製図
⑨		⑨ 展開図の表現の仕方
⑩		⑩ 最終評価・講評
⑪		⑪
⑫		⑫
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	製図のプロセス・提出期限・最終成果図面を総合的に評価する。50点以上を合格とする。
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	最新建築設計製図(井上書院)		

その他	
-----	--

教科名 建築製図演習Ⅱ

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築学科2年

担当教員 森 雅宏

実務経験: 建築設計

目的	鉄骨造設計図書を教材として用い、意匠図・構造図・設備図・部分詳細図を読み取り作図することで実務知識を教える。実務を通して各図面が密接に関係することを理解することが重要であることを認識しており、このことを学生によく指導したい。
----	--

授業概要	前期	後期
	① 共通事項:建築製図の基本、製本構成、演習	①
	② 鉄骨造の製図:平面部分詳細図1(A3)	②
	③ 鉄骨造の製図:平面部分詳細図2(A3)	③
	④ 鉄骨造の製図:平面詳細図1(A2)	④
	⑤ 鉄骨造の製図:平面詳細図2(A2)	⑤
	⑥ 鉄骨造の製図:平面詳細図3(A2)	⑥
	⑦ 鉄骨造の製図:断面部分詳細図3(A3)	⑦
	⑧ 鉄骨造の製図:断面部分詳細図4(A3)	⑧
	⑨ 鉄骨造の製図:断面部分詳細図5(A3)	⑨
	⑩ 鉄骨造の製図:矩計図1(A2)	⑩
	⑪ 鉄骨造の製図:矩計図2(A2)	⑪
	⑫ 鉄骨造の製図:矩計図3(A2)	⑫
	⑬ 鉄骨造の製図:矩計図4(A2)	⑬
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	各課題を指定期日までに提出し、100点満点評価とする。ただし授業態度による減点あり(-5点/-10点)。各課題はして期日までに必ず提出すること。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント(2号館校舎設計図書)	

その他	一級建築士、二級建築士資格の取得を目指す。
-----	-----------------------

教科名 建築製図演習Ⅱ

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築学科2年

担当教員 山本 崇仁

実務経験: 建築施工管理

目的	鉄骨造設計図書を教材として用い、意匠図・構造図・設備図・部分詳細図を読み取り作図することで実務知識を教える。実務を通して各図面が密接に関係することを理解することが重要であることを認識しており、このことを学生によく指導したい。
----	--

授業概要	前期	後期
	① 共通事項:建築製図の基本、製本構成、演習	①
	② 鉄骨造の製図:平面部分詳細図1(A3)	②
	③ 鉄骨造の製図:平面部分詳細図2(A3)	③
	④ 鉄骨造の製図:平面詳細図1(A2)	④
	⑤ 鉄骨造の製図:平面詳細図2(A2)	⑤
	⑥ 鉄骨造の製図:平面詳細図3(A2)	⑥
	⑦ 鉄骨造の製図:断面部分詳細図3(A3)	⑦
	⑧ 鉄骨造の製図:断面部分詳細図4(A3)	⑧
	⑨ 鉄骨造の製図:断面部分詳細図5(A3)	⑨
	⑩ 鉄骨造の製図:矩計図1(A2)	⑩
	⑪ 鉄骨造の製図:矩計図2(A2)	⑪
	⑫ 鉄骨造の製図:矩計図3(A2)	⑫
	⑬ 鉄骨造の製図:矩計図4(A2)	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	各課題を指定期日までに提出し、100点満点評価とする。ただし授業態度による減点あり(-5点/-10点)。各課題はして期日までに必ず提出すること。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント(2号館校舎設計図書)	

その他	一級建築士、二級建築士資格の取得を目指す。
-----	-----------------------

教科名 **建築計画演習**

	前期	後期
コマ数	4	

総時数
144

開講学科 **建築学科1年**

担当教員 **森 雅宏**

実務経験: **建築設計**

目的	設計課題「趣味室のある住宅」(木造2階建て)を通して、設計コンセプトのまとめ方・プランニングの進め方・設計の基本事項などの理解を図る。実務で得た知識と経験に基づき、条件整理～コンセプト～エスキス～成果品(図面・模型)の作成に至るプロセスを、初学者にも分かりやすく解説する。
----	--

授業概要	前期	後期
	①	・授業の進め方・課題説明・今後の流れ
②	・テーマ(趣味)の設定 ・モジュールの基本・ブロックプラン演習	②
③	・ゾーニング～ブロックプラン検討 ・所要室サイズ感の基本	③
④	・ブロックプランチェック	④
⑤	・ブロックプラン完成→提出	⑤
⑥	・エスキス開始	⑥
⑦	・エスキス作成(ラフスケッチ)	⑦
⑧	・エスキス作成(配置・平面)	⑧
⑨	・エスキス作成 (立面・断面・外観イメージ)	⑨
⑩	・図面作成(配置・平面)	⑩
⑪	・図面作成(立面・断面)	⑪
⑫	・図面作成(内観パース等)	⑫
⑬	・模型作成	⑬
⑭	・模型写真撮影→図面に貼り込み	⑭
⑮	図面・模型の完成～提出	⑮

評価方法	・中間(ブロックプラン50点・エスキス50点の合計点による評価) ・期末(プレゼンテーション図面50点・模型による採点50点の合計点による評価) ・学年(中間・期末得点の平均点による評価)
------	--

教科書 教材	教科書 建築計画・設計シリーズ 「新・住宅 I」(市ヶ谷出版)	教材 オリジナルプリント	備考
-----------	---------------------------------------	-----------------	----

その他	
-----	--

教科名 **建築計画演習**

	前期	後期
コマ数	4	-

総時数
148

開講学科 **建築学科1年2組**

担当教員 **山本 崇仁**

実務経験: **建築施工管理**

目的	設計課題「趣味室のある住宅」(木造2階建て)を通して、設計コンセプトのまとめ方・プランニングの進め方・設計の基本事項などの理解を図る。実務で得た知識と経験に基づき、条件整理～コンセプト～エスキス～成果品(図面・模型)の作成に至るプロセスを、初学者にも分かりやすく解説する。
----	--

授業概要	前期	後期
	①	・授業の進め方・課題説明・今後の流れ
②	・テーマ(趣味)の設定 ・モジュールの基本・ブロックプラン演習	②
③	・ゾーニング～ブロックプラン検討 ・所要室サイズ感の基本	③
④	・ブロックプランチェック	④
⑤	・ブロックプラン完成→提出	⑤
⑥	・エスキス開始	⑥
⑦	・エスキス作成(ラフスケッチ)	⑦
⑧	・エスキス作成(配置・平面)	⑧
⑨	・エスキス作成 (立面・断面・外観イメージ)	⑨
⑩	・図面作成(配置・平面)	⑩
⑪	・図面作成(立面・断面)	⑪
⑫	・図面作成(内観パース等)	⑫
⑬	・模型作成	⑬
⑭	・模型写真撮影→図面に貼り込み	⑭
⑮	図面・模型の完成～提出	⑮

評価方法	・中間(ブロックプラン50点・エスキス50点の合計点による評価) ・期末(プレゼンテーション図面50点・模型による採点50点の合計点による評価) ・学年(中間・期末得点の平均点による評価)
------	--

教科書 教材	教科書 建築計画・設計シリーズ 「新・住宅 I」(市ヶ谷出版)	教材 オリジナルプリント教材	備考
-----------	---------------------------------------	-------------------	----

その他	二級建築士製図試験に関連する内容となる。
-----	----------------------

教科名 **建築計画演習**

	前期	後期
コマ数	—	114

総時数	114
-----	-----

開講学科 **建築学科1年**

担当教員 **成田 康博**

実務経験: **建築設計**

目的	設計課題「市街地に建つ幼稚園」を通して、設計コンセプトのまとめ方・プランニングの進め方・設計の基本事項などの理解を図る。 実務で得た知識と経験に基づき、条件整理～コンセプト～エスキス～成果品(図面・模型)の作成に至るプロセスを解説する。
----	---

授業概要	前期	後期
	①	① 授業の進め方・課題説明・今後の流れ
②	② テーマの設定 モジュールの基本・ブロックプラン演習	
③	③ ゾーニング～ブロックプラン検討 所要室サイズ感の基本	
④	④ ブロックプランチェック	
⑤	⑤ ブロックプラン完成→提出	
⑥	⑥ エスキス開始	
⑦	⑦ エスキス作成(ラフスケッチ)	
⑧	⑧ エスキス作成(配置・平面)	
⑨	⑨ エスキス作成 (立面・断面・外観イメージ)	
⑩	⑩ 図面作成(配置・平面)	
⑪	⑪ 図面作成(立面・断面)	
⑫	⑫ 図面作成(内観パース等)	
⑬	⑬ 模型作成	
⑭	⑭ 模型写真撮影→図面に貼り込み	
⑮	⑮ 図面・模型の完成～提出	

評価方法	・中間(ブロックプラン50点・エスキス50点の合計点による評価) ・期末(プレゼンテーション図面50点・模型による採点50点の合計点による評価) ・学年(中間・期末得点の平均点による評価)
------	--

教科書	教科書	教材	備考
教材		オリジナルプリント教材	

その他	建築基準法チェックリスト(幼稚園)
-----	-------------------

教科名 **建築計画演習**

	前期	後期
コマ数	—	114

総時数	114
-----	-----

開講学科 **建築学科1年**

担当教員 **戸巻 美樹**

実務経験: **建築設計**

目的	設計課題「市街地に建つ幼稚園」を通して、設計コンセプトのまとめ方・プランニングの進め方・設計の基本事項などの理解を図る。 実務で得た知識と経験に基づき、条件整理～コンセプト～エスキス～成果品(図面・模型)の作成に至るプロセスを解説する。
----	---

	前期	後期
授業概要	①	① ・授業の進め方・課題説明・今後の流れ
	②	② ・テーマの設定 ・モジュールの基本・ブロックプラン演習
	③	③ ・ゾーニング～ブロックプラン検討 ・所要室サイズ感の基本
	④	④ ・ブロックプランチェック
	⑤	⑤ ・ブロックプラン完成→提出
	⑥	⑥ ・エスキス開始
	⑦	⑦ ・エスキス作成(ラフスケッチ)
	⑧	⑧ ・エスキス作成(配置・平面)
	⑨	⑨ ・エスキス作成 (立面・断面・外観イメージ)
	⑩	⑩ ・図面作成(配置・平面)
	⑪	⑪ ・図面作成(立面・断面)
	⑫	⑫ ・図面作成(内観パース等)
	⑬	⑬ ・模型作成
	⑭	⑭ ・模型写真撮影→図面に貼り込み
	⑮	⑮ 図面・模型の完成～提出

評価方法	・中間(ブロックプラン50点・エスキス50点の合計点による評価) ・期末(プレゼンテーション図面50点・模型による採点50点の合計点による評価) ・学年(中間・期末得点の平均点による評価)
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント教材	

その他	建築基準法チェックリスト(幼稚園)
-----	-------------------

教科名 **建築設計演習**

	前期	後期
コマ数	3	

総時数
108

開講学科 **建築学科 2年**

担当教員 **早川陽子**

実務経験: **建築設計**

目的	「住宅地に建つ診療所」地域における診療所の設計。患者、医師、看護師、それぞれの立場から動線計画・平面、断面、立面を構成する。また単位空間、関係法規はもとより、自然・人間・モノとの関係、安心・安全の確保、周辺との景観調和など担当者の実際の設計事例を示しながら、親しみやすく使いやすい、快適な空間造りを目指す。
----	---

授業概要	前期 課題の説明 ① 所要室の役割と法規のチェック ブロックプラン提出 ② エスキス開始（配置兼平面図） エスキス ③ 平面計画、構造計画 エスキス ④ 平面計画、構造計画、外構計画 エスキス ⑤ 平面図 各部の設計 エスキス(配置兼平面図)提出 (中間採点) ⑥ エスキス ⑦ 平面図の整理、断面寸法の検討 エスキス ⑧ 断面計画、立面計画 エスキス ⑨ 断面図、立面図 エスキス 総合指導 ⑩ 各図面のバランス ⑪ 製図・パース・色彩・模型、コンセプトの指導 ⑫ 製図・パース・模型 提出 (期末採点) ⑬ ⑭	後期 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭
------	---	---

評価方法	中間試験: エスキスによる100点満点評価 期末試験: 図面・模型・パースによる100点満点評価
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	新建築設計ノート「診療所・医院」 (彰国社) 建築基準法		

その他	
-----	--

教科名 建築設計演習

	前期	後期
コマ数	3	

総時数
108

開講学科 建築学科 2年

担当教員 戸巻 美樹

実務経験: 建築設計

目的	住宅地に建つ診療所を設計する。実務の設計で必要となる設計留意点を教えながら、患者それぞれの立場で適切な動線計画・単位計画をする。また、関係法規はもとより、自然・人間・モノとの関係、安心・安全の確保、周辺との景観調和も考えつつ、親しみがあり、使いやすく、快適な空間となる設計手法を習得する。
----	--

授業概要	前期	後期
	① 設計概要把握 ・診療所の機能、法規チェック	①
	② 条件の説明と把握 ・ブロックプラン	②
	③ 平面・配置エスキス①	③
	④ 平面・配置エスキス②	④
	⑤ 平面・配置エスキス③	⑤
	⑥ エスキス総合(平面・立面・断面)① S=1/100	⑥
	⑦ エスキス総合(平面・立面・断面)② S=1/100	⑦
	⑧ エスキス総合(平面・立面・断面)③ S=1/100	⑧
	⑨ エスキス総合(平面・立面・断面)④ S=1/100	⑨
	⑩ 製図 S=1/100 模型 S=/100、パース ①	⑩
	⑪ 製図 S=1/100 模型 S=/100、パース ②	⑪
	⑫ 製図 S=1/100 模型 S=/100、パース ③	⑫
	⑬ 製図 S=1/100 模型 S=/100、パース ④	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	中間試験: エスキスによる100点満点評価 期末試験: 図面・模型・パースによる100点満点評価
------	---

教科書 教材	教科書	教材	備考
	新建築設計ノート「診療所・医院」 (彰国社)		

その他	
-----	--

syllabus

教科名 卒業設計

	前期	後期
コマ数		5.5

総時数
209

開講学科 建築学科2年

担当教員 森 雅宏

実務経験: 建築設計

目的	1年半の授業で得た建築知識を基にして、卒業課題の構想・決定、作図、模型製作を通して建築知識を深める。実務経験上の知識を基に重要な建築計画立案からプレゼンテーションまでの流れを教える。抽象的な着想から具現化することは建築を志す者にとって大切なことを理解させる。
----	---

授業概要	後期	
	1) 全体の流れ 課題検討	16) 模型作成1(材料検討・スチレンボード切り)
	2) 課題(3種類)	17) 模型作成2(スチレンボード切り)
	3) 課題決定	18) 模型作成3(スチレンボード切り・仮組立て)
	4) エスキス作成1(下書き)	19) 模型作成4(スチレンボード組立て(壁))
	5) エスキス作成2(検討)	20) 模型作成5(スチレンボード組立て(屋根))
	6) 平面図作成1(決定)	21) 模型作成6(建物着色)
	7) 平面図作成2(下書き)	22) 模型作成7(建物装飾)
	8) 平面図作成3(仕上げ(墨入れ))	23) 模型作成8(道路・外構廻り制作)
	9) 平面図作成4(仕上げ(着色))	24) 模型作成9(道路・外構廻り制作)
	10) 平面図作成5(パース図)	25) 模型作成10(外構廻り(樹木他)制作)
	11) 立面図作成1(下書き)	26) 模型作成11(外構廻り(樹木他)制作)
	12) 立面図作成2(墨入れ・着色)	27) 模型作成12(外構廻り(樹木他)制作)
	13) 断面図作成1(下書き)	28) 模型作成13(レビュー)
	14) 断面図作成2(墨入れ・着色)	29) 模型作成14(修正)
15) 平面図・立面図(プラン図)提出	30) 模型提出	

評価方法	プラン図((CAD作成)平面図・立面図・パース図)提出で50点満点、模型提出で50点満点で評価する(各課題提出日時厳守のこと)。授業態度により減点あり(-3点/-5点/-7点/-10点)。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント	

その他	二級建築士・一級建築士の資格取得を目指す。
-----	-----------------------

syllabus

教科名 卒業設計

	前期	後期
コマ数		5.5

総時数
209

開講学科 建築2年2組

担当教員 山本 崇仁

実務経験: 建築施工管理

目的	1年半の授業で得た建築知識を基にして、卒業課題の構想・決定、作図、模型製作を通して建築知識を深める。実務では重要な建築計画立案からプレゼンテーションまでの流れを教える。抽象的な着想から具現化することは建築を志す者にとって大切なことを理解させる。
----	--

授業概要	後期	
	1) 全体の流れ 課題検討	16) 模型作成1(材料検討・スチレンボード切り)
	2) 課題(3種類)	17) 模型作成2(スチレンボード切り)
	3) 課題決定	18) 模型作成3(スチレンボード切り・仮組立て)
	4) エスキス作成1(下書き)	19) 模型作成4(スチレンボード組立て(壁))
	5) エスキス作成2(検討)	20) 模型作成5(スチレンボード組立て(屋根))
	6) 平面図作成1(決定)	21) 模型作成6(建物着色)
	7) 平面図作成2(下書き)	22) 模型作成7(建物装飾)
	8) 平面図作成3(仕上げ(墨入れ))	23) 模型作成8(道路・外構廻り制作)
	9) 平面図作成4(仕上げ(着色))	24) 模型作成9(道路・外構廻り制作)
	10) 平面図作成5(パース図)	25) 模型作成10(外構廻り(樹木他)制作)
	11) 立面図作成1(下書き)	26) 模型作成11(外構廻り(樹木他)制作)
	12) 立面図作成2(墨入れ・着色)	27) 模型作成12(外構廻り(樹木他)制作)
	13) 断面図作成1(下書き)	28) 模型作成13(レビュー)
	14) 断面図作成2(墨入れ・着色)	29) 模型作成14(修正)
15) 平面図・立面図(プラン図)提出	30) 模型提出	

評価方法	プラン図((CAD作成)平面図・立面図・パース図)提出で50点満点、模型提出で50点満点で評価する(各課題提出日時厳守のこと)。授業態度により減点あり(-3点/-5点/-7点/-10点)。
------	--

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント	

その他	二級建築士・一級建築士の資格取得を目指す。
-----	-----------------------

教科名 建築CAD演習 I

	前期	後期
コマ数	2	-

総時数
72

開講学科 建築学科 1年

担当教員 余湖 祥博

目的	アプリケーションソフトはAutoCAD。製図目的に応じた用紙設定ができ、作図コマンド・編集コマンド等の特徴を理解し図面作成のためのの基本を学ぶ。 また、CAD検定試験3級・2級受験の基礎知識を養う。
----	--

授業概要	前期	後期
	① CADの特徴・目的の理解 基本操作とCAD感覚を養う	①
	② 製図と用紙サイズ 起動・保存・終了 スナップ機能の理解	②
	③ 座標入力・作図コマンドの活用法	③
	④ 円の作成・一時オブジェクトスナップの活用	④
	⑤ 円弧・多角形コマンドの理解	⑤
	⑥ 文字・寸法入力 I 方法	⑥
	⑦ 文字・寸法入力 II 各種編集方法	⑦
	⑧ 図形操作コマンド 移動・コピー・回転・尺度変更の活用	⑧
	⑨ 図形修正コマンド トリム・オフセットの活用法と練習問題	⑨
	⑩ オブジェクトの結合 配列複写の活用法と練習問題	⑩
	⑪ 3級検定問題向け対策 2重線の使い方	⑪
	⑫ 課題作図 II コマンド復習・作図の高率化	⑫
	⑬ 登録・印刷と設定法・まとめ	⑬
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	中間試験・期末試験による100点満点の平均点数 小課題の提出
------	-----------------------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	AutoCAD 2018/AutoCAD LT2018 公式トレーニングガイド(日経BP社)		

その他	目標: 建築CAD検定試験3級受験 基礎知識
-----	------------------------

教科名 建築CAD演習 I

	前期	後期
コマ数		2

総時数
76

開講学科 建築学科 1年

担当教員 出口 広訓

目的	前期で習得したAutoCADの基本操作を用い、木造住宅の建築図面の作図とプレゼンテーション方法を習得する。授業中盤からは建築CAD検定3級の様々な過去問題の作図を行う。図面表現方法や効率的な作図方法等について示しながら演習を行うことで、建築図面を早く、正確に作図する技術を身に付け、建築CAD検定3級資格取得を目指す。
----	---

	前期	後期
授業概要	①	① AutoCADによる基本図面① :木造住宅の平面図
	②	② AutoCADによる基本図面② :木造住宅の立面図
	③	③ AutoCADによる基本図面③ :図面の体裁、着色、印刷設定
	④	④ 建築CAD検定3級対策 :試験の概要、過去問題による演習①
	⑤	⑤ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習②
	⑥	⑥ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習③
	⑦	⑦ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習④
	⑧	⑧ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習⑤
	⑨	⑨ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習⑥
	⑩	⑩ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習⑦
	⑪	⑪ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習⑧
	⑫	⑫ 建築CAD検定3級対策 :過去問題による演習⑨
	⑬	⑬
	⑭	⑭
	⑮	⑮

評価方法	各提出課題による100点満点の平均点数
------	---------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	AutoCAD2018 公式トレーニングガイド(日経BP社)	オリジナルプリント	

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数	2	

総時数
72

開講学科 建築学科 2年

担当教員 出口 広訓

目的	建築設計におけるプレゼンテーションツールとして3Dモデル作成技術を教える。特に後半では課題を中心に授業を進め、設計図をもとにした正確なモデリングや応用技術を習得させる。プレゼンテーション方法や表現について事例をあげ、他者へのプレゼンテーションをはじめ、設計補助のツールとしても実践的に用いることができるようになることを目標とする。
----	---

授業概要	前期	後期
	① SketchUPの概要と基本操作①: モデリングツールの操作、マテリアルの設定等	①
	② 課題①小規模建築物の外観モデリング	②
	③ SketchUPの基本操作②: 図形の移動・複製・回転、正多角形の作成等	③
	④ 課題②: 休憩所のモデリング	④
	⑤ SketchUPの基本操作③: 長さの計測、補助線の作成、角度指定モデリング等	⑤
	⑥ 課題③: 切妻住宅の外観モデリング	⑥
	⑦ SketchUPの基本操作④: 視点の切り替え、レイヤ、モデルの断面表示の方法	⑦
	⑧ 課題④: 店舗付き事務所ビルのモデリング(外観)	⑧
	⑨ 課題④: 店舗付き事務所ビルのモデリング(内観)	⑨
	⑩ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(外観)	⑩
	⑪ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(外観)	⑪
	⑫ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(内観)	⑫
	⑬ 課題⑤: 2階建て住宅のモデリング(内観)	⑬
	⑭	⑭
⑮	⑮	

評価方法	各提出課題による100点満点の平均点数
------	---------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
		オリジナルプリント	

その他	
-----	--

教科名 建築CAD演習Ⅱ (JW)

	前期	後期
コマ数		2

総時数
76

開講学科 建築学科 2年

担当教員 佐藤 嘉彦

目的	CADシステムとJw-cadの基本操作の理解と基本図形等の作図を行いながら、CAD操作技術を教える。また木造住宅の平面図を作図しながら、作図技術を習得できるよう教える。早く正確な図面作成が求められることを理解させる。
----	--

授業概要	前期	後期
①		① Jw-cad基本操作① 直線の書き方 ファイル保存方法他
②		② Jw-cad基本操作② 四角形の書き方 文字の書き方 [戻る]と[進む]他
③		③ Jw-cad基本操作③ 図形の選択 図形の複写と移動他
④		④ Jw-cad基本操作④ 2線 中心線 包絡処理他
⑤		⑤ Jw-cad基本操作⑤ 面取り ハッチング他
⑥		⑥ Jw-cad基本操作⑥ レイヤ 属性変更 パラメトリック変形他
⑦		⑦ Jw-cad基本操作⑦ 文字の編集 寸法線 レイヤグループ他
⑧		⑧ Jw-cad基本操作⑧ 輪郭線 表題の書き方他
⑨		⑨ 建築CAD作図演習1(平面図)
⑩		⑩ 建築CAD作図演習2(1階・2階平面図)
⑪		⑪ 建築CAD作図演習3(1階・2階平面図)
⑫		⑫ 建築CAD作図演習課題提出
⑬		⑬
⑭		⑭
⑮		⑮

評価方法	中間試験はJw-cadの基本操作を踏まえた作図試験(建築CAD検定3級程度)により100点満点評価とする。期末試験は行わずに、課題による評価(1階・2階平面図)と日常の授業中における作業取組姿勢により評価する(-5点/-10点)。
------	---

教科書 教材	教科書 なし	教材 オリジナルプリント	備考
-----------	-----------	-----------------	----

その他	建築CAD検定2級の資格取得を目指す。Jw-cad操作を確実に覚え正確な作図をすること。
-----	--

	前期	後期	総時数 74
コマ数	1	1	

開講学科 建築学科 1年

担当教員 大野 佳月

目的	お客様に設計意図をより判りやすく説明する為のプレゼンテーションにおいて、図面の他に模型やパースが重要な役割をめている。授業では模型やパースの基礎から設計課題(各自で設計)をより良く表現する為の方法を理解させる。
----	---

授業概要	前期 ① 授業の進め方 プレゼンテーションの必要性解説 ② (模型)道具・材料説明 コーナーの製作 ③ (模型)「100角ビル」のモデリングの説明 図面の理解・スケール変更・壁の作成 ④ (模型) 図面の理解・スケール変更 壁・出入口の作成 ⑤ (模型) 図面の理解・スケール変更 窓の説明・窓の作成 ⑥ (模型) 図面の理解・スケール変更 調整・仕上げ ⑦ (図面表現)印刷平面図に着色説明 テラスの自由デザイン説明 ⑧ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法・立体感のある木の表現方法 ⑨ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 芝生の表現方法 ⑩ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 室内床・家具の表現方法 ⑪ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 テラスの表現方法 ⑫ (図面表現)印刷平面図に着色・色鉛筆での 素材表現方法 仕上げ ⑬ ⑭ ⑮	後期 ① (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」作図説明 ② (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」画面枠の作図 ③ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」窓の作図 ④ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 ベット・机の作図 ⑤ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 椅子の作図 ⑥ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」 照明器具の作図 ⑦ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」色鉛筆着色 ⑧ (パース)内観1点透視着色 「住宅 勉強部屋」色鉛筆着色 仕上げ ⑨ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より作図説明 ⑩ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より壁・窓の作図 ⑪ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より出入口の作図 ⑫ (パース)2点透視図 「パースビル」 図面より歩道の書き方説明・作図・仕上げ ⑬ ⑭ ⑮
------	---	--

評価方法	中間・期末の提出課題100点満点評価
------	--------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考	
	パーステック (学芸出版社)	100角キューブ建築: 図面一式		
	見てすぐつくれる建築模型の本 (彰国社)	1点透視図: 図面一式 パース: 透視図プリント		

その他	
-----	--

	前期	後期
コマ数		2

総時数
76

開講学科 建築学科 1年

担当教員 高木 順子

目的	建築を計画、デザインするうえでの造形の基礎的な技法及び見方・考え方を教える。作品を制作するプロセスを体験し、考える方法を理解するように指導する。より立体的に表現出来るように作品性の高いものを完成させ、以降の学生自身の制作に役立つように指導する。
----	--

授業概要	①	後期	① 1)授業内容及び用具の説明、2)建築デザインに対する考え方について、3)自分の造りたい建物についてのラフスケッチ、自分の中にある建物について考える、4)スケッチ完成
	②	②	デザイン表現の基礎として、グラデーションを描く、鉛筆による明暗のグラデーション
	③	③	鉛筆デッサンーガラス瓶・アルミ缶
	④	④	素材の形体及び質感を表現する
	⑤	⑤	北海道立近代美術館見学 美術館建築を体感し、美術作品を観る。
	⑥	⑥	平面構成ーマチエールの違いによる構成 質感の違いを表現する、√の長方形
	⑦	⑦	「マチエールの違いによる構成」 ケント紙で質感の違うパーツを製作
	⑧	⑧	「マチエールの違いによる構成」 造ったパーツを美しく構成する。
	⑨	⑨	立体構成ー動きのある内部空間をデザインする
	⑩	⑩	立体構成ー制作・彩色 より動きを表現するためのグラデーションで行う
	⑪	⑪	立体構成、組み立て、仕上げ
	⑫	⑫	
	⑬	⑬	
	⑭	⑭	
	⑮	⑮	

評価方法	提出作品による評価(100点満点)
------	-------------------

教科書 教材	教科書	教材	備考
	なし 必要に応じてプリントを配布する	スケッチブック1冊 鉛筆・色鉛筆 他	

その他	
-----	--